

☆鳥取養護学校：全員辞職問題で看護師3人派遣 通学可能に

毎日新聞 2015年06月10日 12時34分

<http://mainichi.jp/select/news/20150610k0000e040223000c.html>

- > 鳥取県立鳥取養護学校（鳥取市）で看護師6人が一斉に辞職を申し出、医療的ケアを必要とする一部の児童生徒が授業を受けられなくなっている問題で、11日から看護師3人が新たに派遣されることが決まった。登校できなくなっていた児童生徒9人も通学できるようになるという。…などと伝えています。

*鳥取養護学校：全員辞職問題で看護師3人派遣

毎日新聞 2015年06月10日 大阪朝刊

- > 鳥取県立鳥取養護学校（鳥取市）で看護師6人が一斉に辞職を申し出、医療的ケアを必要とする一部の児童生徒が授業を受けられなくなっている問題で、11日から看護師3人が新たに派遣されることが決まった。登校できなくなっていた児童生徒9人も通学できるようになるという。…などと伝えています。

☆鳥取養護学校：辞職看護師ら体制に不満 「意見言う場無かった」／鳥取

毎日新聞 2015年06月10日 地方版

- > 県立鳥取養護学校で看護師6人が一斉に辞職を申し出て、児童生徒9人が通学できなくなっている問題は9日、県教委が補充の看護師を確保し、11日から3人体制で医療的ケアが再開されることが決まった。一方、県教委の聞き取りで、辞職を願い出た6人が「(人員が少なく)急な休みを取りづらかった」などと体制に不満を抱いていたことも取材で分かった。県教委は追加の補充を進め、体制の改善も図るとしている。

県教委によると、6人は非常勤で、児童生徒の状態やケアのあり方について定期的に話し合うケース会議に出席する機会もなく、「自分たちの意見を言う場が無かった」とも話しているという。

ケース会議への看護師の参加について県教委は取材に対し「学校で工夫してできることだが、一緒に検討することも必要」とした。また、看護師らが辞職の理由に「保護者からの威圧的な言動」を挙げ、この保護者は4月中旬から不満の声を学校に寄せていたことから、「一般的な保護者からの要望に学校としての対応する体制を作らないといけない。マニュアルが必要かも含めて検討する」とした。

特別支援学校への看護師の配置には国などの基準はない。鳥取養護学校には医療的ケアが必要な児童生徒が33人おり、学校は看護師8人が必要としている。県教委は「必要な医療的ケアの程度に合わせて柔軟に配置できる方が良い」との考えだが、「さらに看護師を補充し、2学期からの新体制で運営できるようにしたい」と話している。

…などと伝えています。

☆鳥取養護学校：全看護師が辞職 「保護者が高圧的」／9人通学できず

毎日新聞 2015年06月9日

☆鳥取養護学校：看護師不在 県議会委、県教委の対応に批判 4、5人授業受けられず／鳥取
毎日新聞 2015年06月09日 地方版

<http://mainichi.jp/edu/news/20150609ddlk31100532000c.html>

> ◇教育長「体制整備へ」

県立鳥取養護学校（鳥取市江津）で医療的ケアを行う看護師が5月25日から不在となっていることが8日、分かった。県議会の総務教育常任委員会で県教委が報告したが、看護師6人が一斉に辞職する理由となった保護者のクレームが4月中旬から学校に寄せられていたことも判明。県教委の対応に議員からは厳しい質問や指摘が相次ぎ、山本仁志教育長は「ご迷惑をかけたことをおわび申し上げたい。同じことが起こってはいけないので、アドバイザーの意見を聞きながら体制を整備したい」などと釈明した。

県教委などによると、6人の看護師は30代～50代の女性で、▽6時間2人▽5時間2人▽3時間1人の5人体制でローテーションを組んで児童生徒のケアに当たっていた。5月22日、6人全員が辞職を申し出たため、学校や県教委が聞き取りを開始。ケアが所定時刻に最大で8分遅れたことや手順について1人が保護者から厳しい叱責を受けたという。

学校は同24日、臨時の保護者説明会を開いて経緯を報告。同25日は休校として訪問授業などの体制を整えたが、現在も4～5人の児童生徒が授業を受けられない状況が続いている。県教委は「保護者と看護師の間の認識のずれもあったのではないかと。看護師の増員も含めて対策を講じる必要がある」とした。

県教委は「他県では自宅で訪問看護を受けながら教員が訪問授業をすることが多いが、県では積極的に学校に受け入れ、看護師を配置してきた」「鳥取養護学校では近年、ケアが必要な子供が急増し、必要な人員を確保しているつもりだった」などとも主張したが、「看護師6人がチームで働ける体制だったかには課題があったと認識している」と認めた。「医療的ケアを必要とする児童生徒が増え、看護師の体制が苦しかったとも聞いている。組織としての受け止めなどが不十分だった」とも釈明。県看護協会などに派遣を要請中で、近く学校でのケアを再開する方針という。

一方、委員会では、叱責をした保護者が4月中旬から教員の対応や学校の環境整備などについても要望や指摘を重ね、同月下旬からは県教委にも不満の声を寄せていたことも報告された。5月には2回、県教委、学校、保護者で話し合ったといい、議員の一人は「保護者の納得は得られたのか」と質問。県教委は「一般的に保護者の思いには沿うべきだが、医療的ケアは医師の指示のもと看護師が実施する。保護者とは十分な意思疎通ができていないので引き続き努力する」と回答した。

また、一般的な保護者対応への質問も出され、県教委は「学校としてチームで対応してください」と話していたが、マニュアルまではない」と回答。議員からは「6人が一緒に辞職するのは尋常ではない。看護師の補充だけで、どうにかなる話ではない」との指摘も出た。

…などと伝えています。

☆鳥取養護学校：看護師全員が一斉に辞職

毎日新聞 2015年06月08日

<http://mainichi.jp/select/news/20150609k0000m040100000c.html>

> 鳥取県立鳥取養護学校（鳥取市）で、医療的ケアを担う看護師が不在になり、ケアの必要な児童生徒9人が通学できなくなっていることが分かった。以前から要員不足の事情があり、ケアの一部が遅れたことを保護者から批判された看護師6人全員が、一斉に辞職を申し出た。県教委は看護師の配置や相談体制の不備を認め、後任の人材確保を急いでいる。

県教委が8日の県議会で報告した。同校には小学部から高等部までの児童生徒76人が在籍、うち33人がたんの吸引などのケアを必要とする。看護師6人は非常勤で、5月22日の授業終了後に全員が辞職の意向を伝えた。看護師の1人は、ケアが数分遅れたことについて、ある保護者から威圧的な言動を繰り返し受けたと訴え、他の5人も不安を募らせていたという。

医療的ケアの必要な児童・生徒は現在、保護者同伴で登校するか、校外のデイサービス施設で教員の訪問授業を受けている。施設を利用せず家庭訪問を希望しない児童生徒4、5人が授業を受けられない状態という。

野坂尚史校長は「本来は8人の看護師が必要。一刻も早く人材をを見つけたい」と話した。県教委は「医療的ケアを必要とする児童生徒が増え、看護師の体制が苦しかったとも聞いている。組織としての受け止めなどが不十分だった」と釈明。県看護協会などに派遣を要請中で、近く学校でのケアを再開する方針という。

…などと伝えています。